

戦後70年・沖縄戦70年

2015年沖縄週間／沖縄の旅 参加のご案内

6月20日（土）～23日（火）

キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。コロサイ3:15

ぬち

たから

命どう宝

～いのちより他のものを優先する社会に「否」を言う～

41年前の3月2日、沖縄教区小禄聖マタイ教会・聖マタイ幼稚園敷地の隣接側溝で下水道工事中、埋設していた不発弾(改造型機雷)が爆発、園庭で遊んでいた3歳の女の子と工事作業員を含め4人が亡くなり、34人が重軽傷を負い、家屋、建物81棟が全半壊、車輛40台が被害を受けるといふ大惨事が起きました。このいたましい「負の遺産」を覚え続け、平和を祈念するため今年3月2日、幼稚園園内の一角に記念碑が建立されました。碑には「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」と刻まれています。式典で、当時園長をされていた鬼本司祭は、「爆発直後、泥の中から小さい子供の手が動いていた。引き出そうとしたとき既に命は亡くなっていた。本当に恐ろしいことが起きた」のだと当時の状況を証言されました。

広島、長崎の原爆投下に至る終戦末期には主要都市や工業地帯が空爆を受け、そのため本土でも時々不発弾が発見され処理されています。70年前、地上戦が戦われた沖縄では戦後から復帰までに約5,500トン、復帰後は約1,785トンの不発弾が処理されましたが、今なお2,300トンの不発弾が埋設していると推定されており、完全処理には70年はかかると推測されています。この意味において戦後処理は終わっていないといえることができるでしょう。「鉄の暴風」の中でおおよそ94,000人の無辜の住民を巻き込んで20万余の人々の命が奪われました。命からがら生き残った人々には癒えない心の傷を負わせました。未だに戦後処理が終わらないこの地に政府は、新たな軍事基地の建設を本格化させています。軍事基地がもたらす住民への被害は、環境破壊、日常的な爆音被害、軍用機の墜落事故、演習中の砲弾の破片や流れ弾の民家への飛び込み、兵士による凶悪な犯罪など、多岐にわたり県民の日常生活を脅かします。

今年の「沖縄週間／沖縄の旅」のプログラムの初日に「ひまわり」という映画の上映を組みました。1959年6月、沖縄本島中部にある石川市(現、うるま市)で嘉手納基地を飛び立ったジェット戦闘機が操縦不能となり、民家35棟をなぎ倒したあと、小学校に墜落、炎上し、死者17人(小学生11人、一般住民6人)、重軽傷者210人、全焼・半焼の校舎、民家41棟を出す大惨事が起こりました。その大惨事を伝えているのがこの「ひまわり」という映画です。しかし、軍用機による被害はその後とも絶えません。2004年8月に沖縄国際大学に墜落した米軍ヘリコプター事故と同様、米軍は日本側の取材活動や捜査活動を阻止、妨害し、また事故原因を明らかにしませんでした。被害者

への十分な補償もされず人の命が軽んじられ、沖縄の住民がいかに差別されているかを如実に示しています。二日目に、「沖縄の旅」の恒例のプログラムですが普天間基地と嘉手納基地を見て、映画「ひまわり」の脚本の元となった被害者や遺族の証言集をまとめた久高政治さん(当時宮森小学校5年生)の講演を行います。

三日目には辺野古に命がけで18年も新基地建設阻止の座り込みを続けている皆さんの中に入り、共に過ごし、学びの時を持ちます。現政権は積極的平和主義を進めると唱えながら軍事基地を先鋭化させ隣国を刺激し軍拡競争に拍車をかけています。美しくも恵み豊かな自然環境を破壊し、愚かな戦争へとつながる軍事基地を造る国策を糾そうとする民意を一顧だにせず、あくまでも辺野古に基地建設を強行しています。元ドイツ大統領ワイツゼッカーの言葉、「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目になる」を心に刻み、「いつか来た道」に戻らない日本でありたいものです。

今回の旅の主題は「命どう宝～いのちより他のものを優先する社会に『否』を言う～」、聖句に「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい」(コロサイ3:15)と致しました。世に流されず、惑わされず、真実は何か、と神の声を聴く、そのような旅になることを願っています。多くの方々、特に、まだ参加されたことのない、また現状を知らない方々の参加をお待ちしています。

(沖縄教区委員 富本盛彦)

※2014年第61(定期)総会にて、これまでに続いて「沖縄週間」の継続が決議されました。

これは、日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、私たち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とするものです。

沖縄教区と日本聖公会正義と平和委員会は、この週間にあわせ、沖縄の歴史及び現在を学ぶ旅を行い、全国の皆さんをお誘いしています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしています。

沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、私たちを平和の器にしてください。

嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、

敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。

私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中に癒しを、

疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。

この沖縄週間を通して私たちを新たにし、

あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。

私たちの主イエス・キリストのいつくしみによって、

このお祈りをお献げいたします。アーメン

主催 日本聖公会 沖縄教区
日本聖公会 正義と平和委員会

参 加 の し お り

* 航空券手配について *

2日目の6月21日（日）の宿泊と共に、市販の「ホテルパック」で手配されることを
お勧めします（航空券とホテルを別にとるよりも安く購入できます）。各地発及び帰りの
沖縄発の時間はできる限りプログラムに支障のないようにご設定ください。

* 宿泊について *

- ・ 1日目 20日（教会分宿）の宿泊先は基本的には当方で手配します。
- ・ 2日目 21日の宿泊先は、翌22日のプログラムが小禄聖マタイ教会出発ですので、
那覇市内で、なるべく小禄聖マタイ教会に近いホテル（同封地図参照）を
ご手配ください。
- ・ 3日目 22日の宿泊は当方で那覇市内にあるホテルを手配します。
- ・ 費用を抑えたい方は、小禄聖マタイ教会への宿泊等も手配できます（要相談）。

* 費用（概算） *

- ・ 20日 教会分宿 3, 000円
 - ・ 21日 ホテルパック（各自）
 - ・ 22日 ホテル 6, 000円
 - ・ プログラム参加費 8, 000円（精算の上、追加徴収があるかもしれません。）
 - ・ 食事代（21日夕・22日昼・23日昼）
2, 000円程度
- 合計金額 各地からのホテルパック ＋ 19, 000円程度

* 集合時間・場所 *

13時までに 那覇空港1階「到着口B」付近へ。係の者が立っています。
各自昼食を済ませてお集まりください。集合の後、バスに乗り、沖縄教区センターに
向けて出発しますので、くれぐれも時間厳守でお願いします。

* スタッフ *

- ・ 沖縄教区：司祭金 汀洙、司祭高良孝太郎、富本盛彦、並里 厚、司祭岩佐直人、
執事並里輝枝、執事西平妙子、高良孝子、主教上原榮正、
- ・ 正義と平和委員会：司祭長田吉史、佐藤由佳、司祭柴本孝夫

* 締め切り * 5月 4日（月）

〒162-0805 新宿区矢来町65番地 日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛
電話03（5228）3171 FAX 03（5228）3175

2015年沖縄週間／沖縄の旅 プログラム

6月20日（土）～23日（火）

今回は、「命どう宝 ～いのちより他のものを優先する社会に『否』を言う～」というテーマのもとプログラムを構成しています。以下、トピックを記します。

- 20日：集合し、沖縄教区センターへ移動し、受付。開会礼拝。映画鑑賞『ひまわり』。
分宿のため各教会へ。
- 21日：分宿先教会の主日礼拝に参加、午後、基地を巡りつつ、沖縄教区センターへ移動。
講演会「基地被害の実際～戦闘機墜落事故遭遇者の証言～」と質疑応答。講師－久高政治氏。
夜、夕食をかねての交流会。分かち合い、平和への取り組み・行動の今後について。各自手配のホテルへ宿泊。
- 22日：小禄聖マタイ教会をバスで出発し、辺野古へ。新基地建設阻止のための座り込みに参加。
午後、名護聖ヨハネ教会へ移動し、分かち合い。夕方、小禄聖マタイ教会へ移動し、沖縄教区主催の夕食会に参加。那覇市内の当方手配のホテルへ。
- 23日：ホテルをバスで出発し、北谷諸魂教会での沖縄教区「慰霊の日」礼拝（主教会も参加）に参列。
昼食後、13時解散。（13時30分空港行きバス出発、14時30分那覇空港着の予定）。

日 時\	1 日目 6 月 2 0 日 (土)	2 日目 2 1 日 (日)	3 日目 2 2 日 (月)	4 日目 2 3 日 (火)
8:00		朝食 各教会にて	朝食 各ホテルにて 8:30 バスにて 辺野古へ出発 (集合ー漫湖水鳥 湿地センター駐車場、 沖縄教区センター) 10:00 辺野古テント村着	朝食 ホテルにて
9:00		各宿泊教会の 礼拝に出席		移動ー北谷諸魂教会へ 向けて出発
10:00				10:30 沖縄教区 「慰霊の日」礼拝 北谷諸魂教会
11:00				
12:00	13:00 集合 (那覇空港) バスにて出発 14:00 受付 (沖縄教区センター)、 開会礼拝 オリエンテーション	各教会で昼食	昼 食 (弁当)	昼 食 (弁当)
13:00		移 動	瀬嵩の丘から 大浦湾を望む	解 散 13:30 空港行きバス出発 14:30 バス空港着
14:00		普天間基地 嘉手納基地、など	移 動	
15:00			14:30 分かち合い 名護聖ヨハネ教会	
16:00	16:00 移動 (教区センター経由)			
17:00	教会分宿先へ移動	講 演 講師ー久高政治氏 「基地被害の実際 ～戦闘機墜落事故 遭遇者の証言～」 沖縄教区センター	沖縄教区主催 夕食会に参加 小禄聖マタイ教会	
18:00				
19:00				分宿先で夕食
20:00	就寝前の祈り ホテルへ移動			
21:00		ホテルへ移動		
就 寝				
宿泊	各教会に分宿	各自手配のホテル	当方手配のホテル	

お申し込みの際して

- 下記申込書にご記入の上、日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛にお送りください。
〒162-0805新宿区矢来町65番地 TEL 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
- 航空券手配、宿泊場所について、その他
『参加のご案内』の「参加のしおり」をよくご覧ください。
- 締切日は5月 4日(月)です。

キリトリ

2015年 沖縄週間 / 沖縄の旅 申込書

ふりがな		年 齢	性 別
氏 名		歳	男 ・ 女
		※宿泊の部屋割り等の判断材料とさせていただきます。	
住 所	〒		
電 話	()	FAX	()
携帯電話	()	Email	
所属教区 所属教会	教 区		教 会
利用航空便について			
往	日	航空会社名 便	那覇空港 着 時刻 :
復	日	航空会社名 便	那覇空港 発 時刻 :
宿泊について			
2 2 日	ホテル () ・ 小禄聖マタイ教会 ※決まっていればホテルを記入。教会宿泊を希望する場合は○で囲んでください。		
食事について（必要なところにチェックマークを入れてください。）			
☐ 2 1 夕 ☐ 2 2 昼 ☐ 2 3 昼			
自己紹介欄（ご自由にどうぞ。参加動機などもお聞かせください。）			